

祝 辞

本日、長崎総合科学大学に入学された新入生の皆さん、入学誠におめでとうございます。

大学院や日本語別科に進学された皆さんにも、心からお祝いを申し上げます。

また、コロナの影響によりご参加いただけなかったご家族の皆様にも感謝とお祝いを申し上げます。

今日から君たちは、このキャンパスで、本学の大学生としての新しい生活が始まります。

本学は、昨年1月以降、コロナ感染の広がりに対し、直ちに危機対策本部を立ち上げ、学生諸君の安全・安心を第一に教職員一丸となり、全力で感染防止対策に取り組んできました。その結果、一部には、遠隔授業を取り入れながらも、ほとんどの授業を、通常の対面方式で実施するという全国の大学の中でも数少ない実績を残すことができました。

それでも、やはり、スポーツやサークル活動、友達との語らい、学外交流など様々な面で、深刻な影響は避けられず、これまで当たり前のようになってきた活動がなかなか難しくなっているのが実情です。

大学としても、一日でも早く、こうした状況を克服し、皆さんのかけがえない大学生活を取り戻すことができるよう全力で取り組んでいるところですが、まだまだ先行き不透明と言わざるを得ません。

これから新しい生活が始まるという期待で胸を膨らませている新入生の皆さんにとって、とても不安で、納得できないのはよく分かります。もうしばらく我慢の時間が必要なことをご理解してもらいたいと思います。

しかし、そうは言っても、あまりに深刻になり過ぎたり、心配し過ぎる必要はありません。

君たちは、一人じゃない。

何か心配なこと、不安や問題があったら、遠慮なく、私たち教職員に相談してください。学生支援センターや保健センターの専門の先生方も、君たちの相談を待っています。

それだけでなく、私たち教職員全員が、しっかりとスクラムを組んで、君たちの生活全般を見守り、全力でサポートしていきます。

君たちを決して「孤立させない」ということを本学全体の約束にしたいと思います。

本学に入學してくる学生諸君には、何かのきつかけ、何かのチャンスさえあれば、驚くほどの能力を発揮し、大きく成長する、そうした「のびしろ」を秘めた若者がたくさんいることを私はよく知っています。皆さん一人一人が、自分でその「のびしろ」を発見し、その「のびしろ」を伸ばしていくための努力を始めること、このことが何よりも重要なのです。

そして、その時、一番大事なことは、自分は何をやりたいのか、どのように生きていきたいのか、自分自身の心に問いかけてみることです。

皆さんは、これから、いつ終息するかわからないコロナウイルスの時代を生きていかなければなりません。誰もがその厳しい事実から逃れることはできません。だから、不安で胸がいつぱいになるのも当然です。

しかし、そうした不安に押しつぶされるわけにはいかないのです。不安や恐れを跳ね返す勇氣と強さが必要なのです。こうした勇氣と強さは、君たちの毎日の地道な努力の積み重ねによってしか得られません。

厳しいコロナの時代だからこそ、もう一度、自分自身に「自分はどのような人間なのか、どのように生きていくのか？」問いかけてみてください。そして、自分なりの「目標」を見つけてください。どんなに小さい、どんなにささやかな目標でもいいですよ。そして、今日から、その目標に向かって、粘り強く努力を始めることです。

私たち教職員は、きみたちのそうした努力を全力でサポートしていきます。君たちがこの大学を卒業する時、自分自身の成長を実感でき、大きく変わった自分自身の姿を発見できる、その日が、必ずやってくるよう、私たち教職員全員が、君たちと手を携えて一緒に進んでいくことをお約束して、入学のお祝いの挨拶といたします。

令和三年四月二日

長崎総合科学大学

理事長 立石 暁